令和4年度 No.8

駒岡小学校だより

１２月号

学びの過程に成長をみる

校長　岸田 薫

今年も早いもので、残すところ1か月となりました。12月は「師走」と言って、「師」が忙しく走り回るイメージがありますが、ここで言う「師」とは、僧侶を指していると言われ、教師ではありません。しかしながら、教師も、児童一人ひとりが2学期を振り返り、3学期へつなげていけるように、この1か月はまさに「師走」な12月を過ごします。

10月の第50回秋季運動会、11月の50周年記念式典と、大きな行事が目白押しだった2学期。子どもたちはそれぞれに思いをもち、成長していきました。

運動会は、初めて2部交代制を取り入れての開催となりました。各ご家庭の皆様からは、アンケートを通じて様々にご意見もいただきましたが、「子どもが生き生きと運動していた」という項目については、実に99.4%の皆様から肯定的なご回答をいただきました。勝ち負けではなく、運動そのものを楽しむ子どもたちの姿を見てもらえたことを嬉しく思います。

50周年記念式典は、残念ながら、ご家庭の皆様に見ていただくことができませんでしたが、子どもたちがそれぞれに工夫したお祝いの表現や学年発表で、素晴らしい式典になりました。式典の様子は、「タウンニュース 鶴見区版」にも記事として取り上げていただいたので、ご覧になった方も多いかと思います。休み時間返上で練習を重ねた児童実行委員の活躍もあり、一人ひとりの心に残る楽しい式典になりました。

学校行事は、その日を迎えるまでの気持ちのもちようや、みんなで協力して準備をしていく過程に大きな意味があります。何か問題が出てきたときに、どう解決していこうかを子どもたちが考え、実際にいろいろとやってみる中で、新たな知恵が生まれてきたり、力を合わせることの意味を感じたりして、成長していきます。

日々の学習も同じで、テストの結果や出来上がった作品はもちろんですが、それ以上に、その子の学びの過程、解決の過程を評価します。それぞれの教科等で身に付けたい力を身に付けるために、どのように取り組んだのか、よりよい学びをつくるために、どのように工夫したのか、そういった姿を見取って評価します。ぜひ、12月の個人面談では、そうした子どもの姿、子どもの育ちを話題にしていければと思います。

忙しい「師走」のイメージが強い12月ですが、春への期待を込めて「梅初月（うめはつづき）」や「春待月（はるまちづき）」と呼ばれることもあります。お子さんの成長を感じるとともに、新しい一年へ思いを馳せながら、年末年始をお過ごしいただければと思います。

今年一年のご支援・ご協力に感謝いたします。来年も、どうぞよろしくお願いいたします。